

2026 年 10 月 21 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 へ り オ ス
代表者名 代表執行役社長 CEO 鍵 本 忠 尚
(コード番号：4593 東証グロース)

DP-Lab KOBE が竣工 施設内に当社の細胞製造拠点を整備・稼働予定

当社が入居し、細胞製造拠点「Healios / KOBE Cell Innovation Center (KCIC)」を整備する予定のレンタルラボ「DP-Lab KOBE」が竣工し、10 月 19 日に竣工式が執り行われました。

DP-Lab KOBE は、大和ハウス工業株式会社が神戸医療産業都市 (KBIC) 内で建設したレンタルラボです。最新設備の導入が可能な次世代型研究拠点として、バイオ・ライフサイエンス分野をはじめとする多様な研究開発ニーズに応えることを目的としています。竣工式には、当社から代表執行役社長 CEO 鍵本忠尚、執行役 神戸研究所長 木村博信が出席しました。



左から 2 人目：CEO 鍵本忠尚



来賓スピーチ

1. Healios / KOBE Cell Innovation Center (KCIC)について

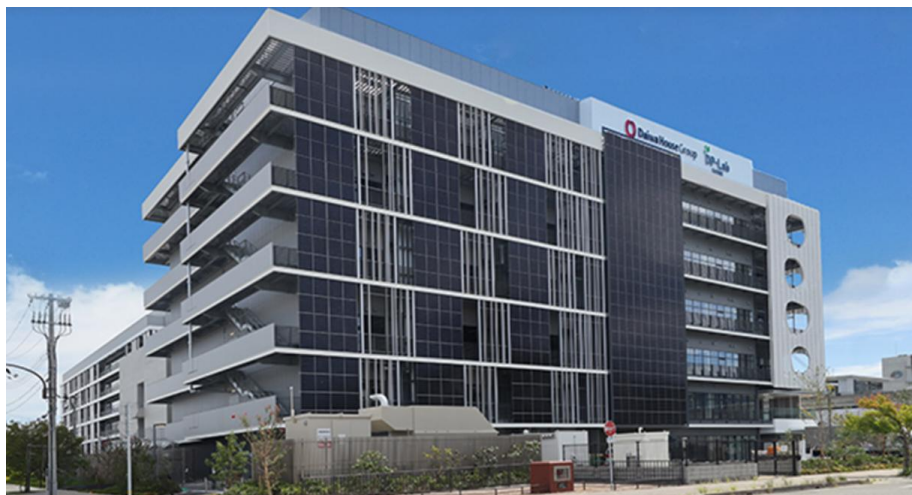
当社は、この度竣工した DP-Lab KOBE 内に、グローバル市場に対応可能な細胞製造拠点である KCIC を整備します (2028 年 1 月稼働開始予定)。これにより CDMO (医薬品開発製造受託) 事業を本格的に始動します。KCIC には三次元バイオリアクターを設置し、三次元培養による細胞製品の供給体制を構築する計画です。

KCIC は、DP-Lab KOBE の 4 階から 6 階 (各階 1,040m²) に整備します。4 階にはプロセス開発 (PD) エリアおよび品質管理 (QC) エリアを、5 階および 6 階には細胞加工・製造エリアを配置し、開発から品質評価、GMP 製造までを一貫して行える体制を構築します。また、日本の GCTP 省令に加え、PIC/S GMP、EU GMP、米国 FDA の cGMP に準拠した設計とし、日本・米国・欧州の規制要件に対応する製造体制の構築を目指します。なお、KCIC は、経済産業省 令和 6 年度補正予算「再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金」を活用して整備を進めています。

(2025 年 7 月 16 日発表「[経済産業省 令和 6 年度補正予算「再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金」採択決定のお知らせ](#)」)

2. 当社が入居予定の [DP-Lab KOBE](#) の概要

- (1) 所在地：兵庫県神戸市中央区港島南町6丁目3-10
- (2) 延床面積：9,144.42m²
- (3) 階数：地上6階・塔屋1階



写真提供：大和ハウス工業株式会社

3. 今後の見通し

本件による当社2026年12月期連結業績への影響はありません。今後、開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上

■株式会社ヘリオスについて

再生医療は、世界中の難治性疾患の患者さんにとって新たな治療法として期待されています。この分野では、製品開発・実用化への取り組みが広がり、将来的には大きな市場となることを見込まれています。ヘリオスは、iPS細胞（人工多能性幹細胞）などを用いた再生医薬品開発のフロントランナーとして、実用化の可能性のあるパイプラインを複数保有するバイオテクノロジー企業です。2011年に設立、2015年に株式上場（東証グロース: 4593）し、再生医薬品の実用化を目指して研究開発を進めています。

体性幹細胞再生医薬品分野では、健康な成人ドナー骨髄由来の体性幹細胞から成る独自の細胞製品である HLCM051 を使用した急性呼吸窮迫症候群（ARDS）や脳梗塞急性期及び外傷由来急性腎不全（AKI）の治験を実施しています。HLCM051 は、強力な抗炎症作用と免疫調節作用を示しており、さまざまな病態への応用が可能です。後期臨床試験において数百人の患者さんで試験され、3D 培養法で一貫して製造されており、複数の適応症において数百人の患者さんで安全性と有効性の両方が実証されています。ヘリオスは、ARDS、脳梗塞急性期、外傷由来急性腎不全（AKI）に対し、HLCM051 をグローバルに推進してまいります。

iPSC 再生医薬品分野では、免疫拒絶のリスクを低減する次世代 iPS 細胞であるユニバーサルドナーセル（UDC：Universal Donor Cell）を作製し、さらには、遺伝子導入技術により固形がんに対する殺傷能力を強化した次世代 NK 細胞（eNK®細胞）AKT-01/HLCN061 の開発を、当社の開発パートナーである株式会社 Akatsuki Therapeutics の主導で、治験開始に向けて進めています。eNK®細胞は、動物モデルにおいて強固な抗腫瘍効果を実証しており、大量生産が可能な 3D バイオリアクターでの製造プロセス

を実現しています。これらにより、がん免疫領域をはじめ、眼科領域、肝臓領域などで新規治療薬の開発に取り組んでいます。 <https://www.healios.co.jp>

本件に関するお問い合わせ先
IR広報部 ir@healios.jp